

表現によりつながる地域の活力創造事業 事業概要

シンポジウム、展覧会、特設サイト等の情報発信により地域の人々と一体となった社会包摂へ

市内で生きづらさを抱える人々、教育現場との協働によるプログラムの展開

・アーティストと地域の人々の協働による表現活動の実施
 ・社会の中で生きづらさを抱える人々の問題に光を当てることで、諸課題を美術館におけるインリーチ事業に反映し、地域住民を巻き込みながら問題意識の共有の場を創出
 ・市民が「自分とは異なる他者」の存在を当事者意識をもって考えられるような機会を作る。

市内母子生活支援施設

・児童・生徒たちとアーティストとの交流を通じて、将来の文化・芸術の担い手や鑑賞者の育成を図る。
 ・プログラムのコーディネート地域をNPO法人に依頼し、学生のサポートを実施することで、専門的な人材育成を目指す。

表現の森事業

引きこもりの若者たちの自立支援NPO

市内高齢者福祉施設

アート前橋 前橋文学館

連携

前橋市教育委員会 群馬大学

実行委員会

市内学校

アーティスト・イン・スクール事業

作家派遣

NPO法人
まえばし
プロジェクト
(コーディネーター)

市内市営住宅団地

インリーチ

作家派遣

学生のサポート

連携

情報発信

情報発信

情報発信

情報発信

国立・都立の美術館・博物館(7館)による文化財の新たな魅力発信プロモーション事業

目的・効果

＜国立・都立の連携＞により来館者の拡大を図り、
 ＜新しい楽しみ方(文化体験)の提案＞により生活の中に美術館・博物館があるライフスタイルの浸透を目指す

若年層の来館促進

20代の美術館来館経験が約5割と低い中、エンターテインメント性が高い企画で関心を喚起

夜間の来館促進

働き方改革等で夜の過ごし方が注目される中、日本に浸透していない夜の美術館・博物館の楽しみ方を提案

外国人の来館促進

外国人観光客のニーズが高い体験型コンテンツや、夜の観光スポットが少ない課題に対する提案

核となる企画

《美術館・博物館を巡るミステリーツアー》⇒詳細は別紙 プレスリリース

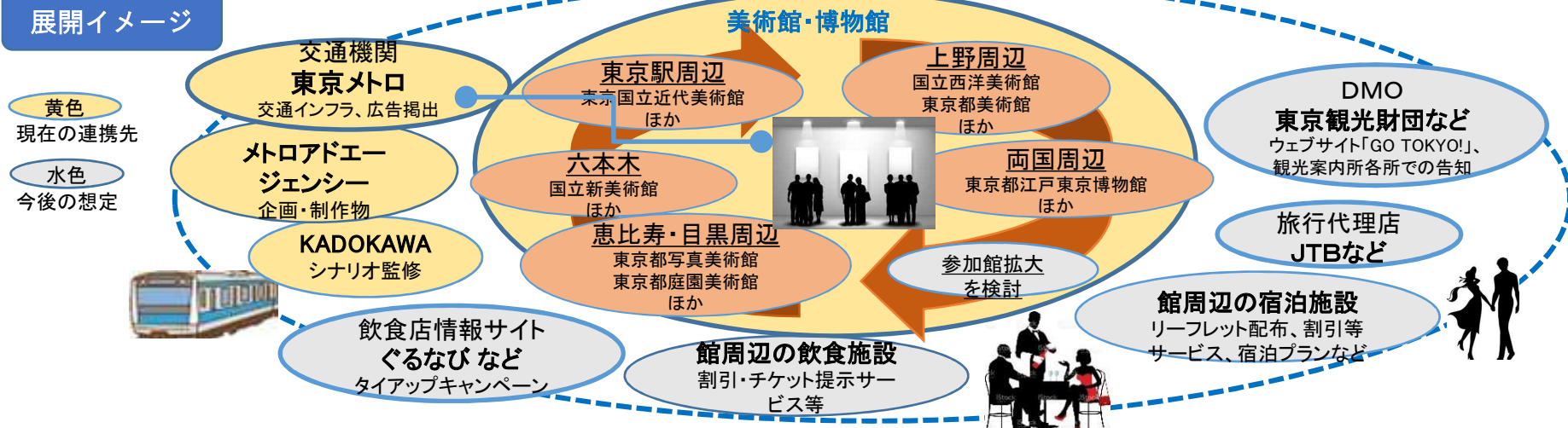
- ポイント
- 国立・都立の複数館連携と民間(東京メトロ)との協働事業
 - メディア(KADOKAWA)によるエンターテインメント性の高い企画、
 - 学芸員による本物の作品鑑賞を通じた謎解き体験という質の高いプログラム



目指す姿

- 参加館の拡大と多様な事業者との連携による、新たな需要創出
- 新しいライフスタイルの提示(夏の恒例事業化・PR強化でモノ消費→コト消費へ)
 美術館・博物館を“より身近で自由に楽しめる場所”へとシフト
 美術館の後、飲食や宿泊を楽しむといった大人の夜の過ごし方を新しいライフスタイルとして浸透させる

展開イメージ



上野「文化の杜」クラスター形成事業（H30年度）

- 我が国最高峰の文化芸術資源・施設が集積した「上野」地域を文化クラスターとし、各施設が連携したアクセシビリティの強化、観光資源・街との連携による文化・観光融合型プログラム提供、上野エリアの魅力の一元的な集約・発信を担う「上野スタイルプラットフォーム」を創造。
- 将来的には上野モデルの全国展開を志向し、全国の文化芸術、観光振興に寄与する文化交流ハブとして、「世界の教科書・上野」を確立、文化芸術立国への貢献を目指す。

地域文化施設の アクセシビリティ強化

「デジタルギャラリー」

- スマートフォン、タブレットを活用した館内・展示作品の多言語紹介、音声ナレーションによる解説
- 館内の審美性を保ちつつ、多言語 & 音声ナレーションを提供する新たな試み
- 各館展開容易性等、汎用性を考慮したサービス

【中核館：西洋美術館】



文化・観光 融合型プログラム

「Ueno Art Walk」

- 上野文化の杜周辺の持つ歴史的・文化的背景を活かし、歴史、建築物等を巡る体験ツアーを展開（歴史体感VR活用）
- 施設・事業者・ボランティアと連携したガイドツアーとして新たな人の動き、文化施設と街との回遊・交流を創出
- 上野を起点としたストーリーやガイド人材を通じた広域連携

上野スタイル プラットフォーム

「上野スタイルポータルサイト」

- 上野エリア来訪者に対してタイムリーに各文化施設案内（企画・特別展情報、混雑情報等）
上野周辺の観光案内（街歩き、イベント等）等の情報を発信
- 収集したビッグデータ等を活用し、今後のプロモーションやコンテンツ改善等マーケティングに活用（PDCA）
- 将来的にはCRMプラットフォームとして、「文化で稼ぐ」総合プラットフォームへ昇華

他地域/全国クラスター
展開・波及

【参考】 上野「文化の杜」クラスター形成事業（将来構想）

2018

2019

2020

2021

2022

▲ 2020東京オリ・パラ



中核館：国立西洋美術館



Step 1 :
美術館・歴史博物館の連携強化



Step 2 :
周辺施設（動物園等）も含めた連携強化

Step 3 :
周辺地区（アメ横等）も含めた連携強化

上野エリアの文化
クラスター形成モデルの完成

Step 4 :
上野エリアを窓口
とした国内外の観光客の全国への送客

Step 5 :
上野モデルの全国
への展開

全国の文化芸術
の振興に資する
「世界の文化交流
ハブ・上野」
の構築

よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業

「横浜」でも「ヨコハマ」でもない
「よこはま」の地域文化遺産が新たな舞台が広がる

横浜市都市
整備局都市
デザイン室

寄木細工・
ひらがな・カタ
カナ・活字

障がい者
アートワーク
ショップ
小机・茅ヶ崎城
(中世城郭と
お城 EXPO)

昭文社
(ことりっぷ)

交錯する4本の柱

原石を探し
人を育み
舞台を整える

地域文化遺産交流拠点の整備

古民家や文化財保存施設を「地域文化遺産交流拠点」として整備をおこなったり、そこに携わる人材を育成するほか、注目が高まりつつある「日常」をテーマに文化遺産として持続的に活用可能なものをつくっていく事業。

舞台を使い
人を結び
企画を育てる

観光拠点化事業

B級地域文化遺産である都筑民家園や大塚・歳勝土遺跡公園（横浜市都筑区）を観光拠点化する事業「日本を知ろう」を本格化し軌道に乗せ、普及可能なユニークベンチャーとしての古民家や都市公園の活用する事業。

原石を磨き
価値を高め
世界に伝える

普及啓発事業

地域に存在する私設・大学博物館や個人コレクションや、これまでの調査研究の中で磨いてきた地域文化遺産やその情報を、ワークショップや展覧会、ウェブサイト、SNS等を通じて発信し、その学術的・観光資源的価値を一時に昇華させるもの。

価値を伝え
原石を守り
舞台を広げる

広報・情報発信事業

広報・情報発信事業は「よこはま地域文化遺産活用事業」全体に関わる事業として、情報発信機能に特化し、従来の地域博物館の広報とは一線を画し、事業全体のブランドイメージを形成する事業。
平成31年度以降に展開する

ミニマルシェ
まちづくり

神奈川大学
(大学博物館)

2020 東京
オリンピック・
パラリンピック

横浜市
教育委員会
(文化財担当)

東京都市大学
(モニター活動)

東山田
郷土資料館
(私設博物館)

富士ゼロックス
株式会社
(技術提供)

横浜開港資料館
(アーカイブズ)

リユース・
リサイクル
デバイス

大道ふれあい
むかし資料館
(学校資料室)

横浜市歴史博物館
(中核館)

朝霧高原茅場
(ふるさと文化
財の森)

横浜市ふるさと
歴史財団

中山恒三郎商店
(横浜市認定歴
史的建造物)

棚田・茅葺き
プロジェクト

区民文化
センター竣工

学校内
歴史資料室

都筑民家園
(NPO 法人)

歴史文化
基本構想策定

ささやま丘の上
ミュージアム
(学校資料室)

関家住宅
(国重要文化財
建造物)

ブランディング
サイト・SNS

横浜市立学校
個別支援学級

遺跡オーガニズ
クマルシェ

横浜市立
小・中学校
高等学校

文化遺産・観光拠点
コーディネーターが
さまざまな舞台をつなぐ

昭和文化
銭湯・商店街・
街頭紙芝居

横浜ユーラシア
文化館
(美術館)

神奈川県立
高等学校
(インターン)

FM 横浜
(タイアップメ
ディア)

鉄小学校
郷土資料館
(学校資料室)

倉敷美観地区・MUSEUMクラスター形成事業

周辺施設・組織

○美観地区内
 語り座 大原本邸
 日本郷土玩具館
 加計美術館
 倉敷コンサート
 倉紡記念館

○美観地区外
 倉敷市立美術館
 倉敷市立自然史博物館

コアとなる3館



公益財団法人
倉敷民藝館



公益財団法人
大原美術館



公益財団法人
倉敷考古館

江戸期の蔵を改修した倉敷民藝館、倉敷考古館、大原美術館 工芸・東洋館。1930年建設の大原美術館本館。ユニークベニューである建築を持つ3館が徒歩1分圏内に集積。周辺は、国指定の重要伝統的建造群保存地区である倉敷美観地区。

2018	2019	2020	2021	2022
------	------	------	------	------

連携強化

周辺施設・組織 ならびに宿泊飲食施設との連携強化
 協力、事業の実施

コア3館の連携強化
 既存事業の協力実施 → 新規協同事業の実施へ
 ・チルドレンズ・アート・ミュージアム
 ・美術講座 etc.

近隣在住民へ

・シビックプライドの醸成
 ・良質なMUSEUM体験

歴史的建造物ガイド育成



対象の拡大

外国からの来訪者へ

・情報の発信
 ・来訪時の満足度

WEB多言語 検討 → WEB多言語 英、韓、中(煩・簡) → WEB多言語 欧系言語

誘導サイン、表示物、配布物
 多言語検討→実施へ



周辺施設・組織 ならびに宿泊飲食施設
 誘導サイン、表示物多言語化

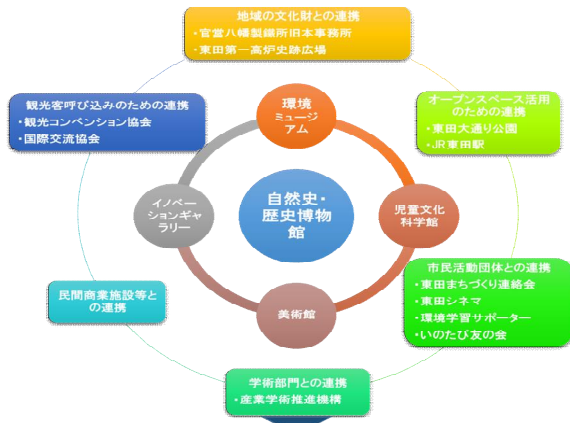
◎北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業

事業概要

1. 文化クラスター・プラットフォームの構築
2. 地区内の面的・一体的な基盤整備
3. クラスター連携イベント、シンボルイベントの実施

1. 文化クラスター・プラットフォームの構築

※東田地区文化クラスター形成イメージ



歴史、美術、自然史、産業技術、環境、科学等をテーマにした複数のミュージアムに横断を通ず組織横断的プロジェクトを展開する。

DMO組織への将来展開を企図

Core Cluster [中核施設群]

東田第一高伊史跡広場
1901年、官営八幡製鐵所の最初の溶鉱炉「東田第一製炉」が完成。改修後、昭和47年まで営業を続けた高炉を復元整備。指定文化財として公開。製鉄の歴史や工程がわかる展示をはじめ、高炉の内部を見ることが出来る貴重な産業遺産。

北九州イノベーションギャラリー
（集客数/年約10万人）
鉄鋼とデザインを融合させた、最先端の知的遺産を未来につなぐ。新しいイノベーションを創出する力を育てる産業技術継承センター。

北九州環境ミュージアム
（集客数/年約13万人）
市民のための環境学習・交流総合拠点。北九州の気象・環境の歴史紹介をはじめ、環境学習機能、環境情報発信、製造業と環境の連携の場を創出する。

北九州市立いのちのたび博物館（集客数/年約60万人）
西日本最大級の規模を誇る自然史・歴史博物館。いのちのたびセンターに、来館者が楽しみながら学べる展示が人気。

明治日本の産業革命遺産 官営八幡製鐵所
平成27年に世界文化遺産登録された施設群「日本製鐵所」を観光スペースから始めることができる。

Connected Cluster [連携施設群]

北九州市立美術館
市民の生活に親しい心の拠り所を創出し、地域とともに成長していく美術館。（建築設計：隈研紀氏）平成20年11月 リニューアルオープン

児童文化科学館（プラネタリウム）
市内最良の児童文化科学館を東田地区のリニューアル事業で、プラネタリウムや最先端の科学技術を体験する新科学館を計画中。

クラスターゾーン=約50ha

2. 地区内の面的・一体的な基盤整備

- ・地区内多言語化の実施
- ・周遊ガイドスタッフの育成
- ・ミュージアム・ツアーなどの子ども体験プログラムの連携
- ・収蔵資料のデジタルアーカイブ化

など

3. クラスター連携イベント、シンボルイベントの実施

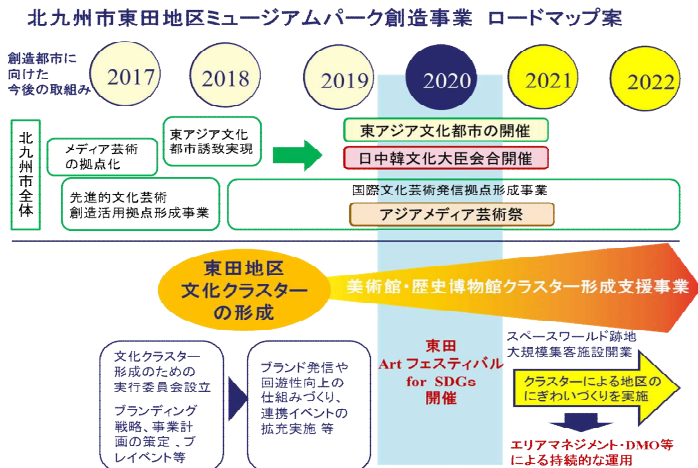
- ・歴史、美術、自然史、産業技術、環境、科学等をテーマとした連携企画展の実施
- ・ナイトミュージアムや、東田大通り公園を活用したイベントの実施
- ・2020年にアートフェスティバル「東田Art for SDGs（仮称）」の開催

など

4. 効果目標について

・東田地区への来場者数 20%増加（平成34年度）
例)3館入場者数 H29:73万人 → H34:88万人

5. スケジュール(予定)



6. 事業費(予定)について

- ・総事業費： 約4億円（H30～H34年度（5年間）） ※毎年申請が必要
- ・H30年度採択額： 40,192千円（うち国補助20,096千円）